

平成 22 年 3 月 10 日

財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会 御中

株式会社モリワキエンジニアリング

取締役 森脇緑

この度、株式会社モリワキエンジニアリングが出場を切望しております世界ロードレース選手権第二戦日本グランプリ茂木大会において弊社の出場理由をここにご説明申し上げます。

私達モリワキエンジニアリングはこの新しい世界選手権 moto2 クラスの車両開発を 2007 年 7 月に詳細なレギュレーションが決定していない状況下の中、世界で一番最初に発表致しました。

これによりそれまで机上の空論であった moto2 クラスの具現化が急加速で進んだ事は御社が一番ご存知だと理解しております。

2008 年は独自に開発を続け、2009 年には全日本 GP250 クラスに 2 戦スポット参戦し、エキシビジョンですが 2 戦共に優勝を飾りました。去年の全日本開催時に弊社のチームには常に黒山の人だかりが出来、観客の方々やメディアの注目度の高さは第三者的に見られてもお分かりになられたと思います。

これはこの所世界不況によりモータースポーツ離れがやむをえず、寂しい話題しかなかった業界に明るい話題であった事は言うまでもありません。

2007 年からこのクラスにおいて国内外へ向けて私達が与え続けていた話題は国内のモータースポーツ業界においても、世界のモータースポーツ業界においても大きかった事と思います。

これは日本のモータースポーツ業界への計り知れない貢献とご理解頂いていらっしゃるとう理解しております。

私達は自社の意思決定により 2 年半の期間開発を続け、moto2 にかけてきました。かけてきたのは「資本と時間と大和魂」です。

モータースポーツ発祥は欧州であります但现在日本の大企業がトップクラスで活躍される中、新しいクラスでは日本の中小企業が活躍をする事、これは日本人のモータースポーツファンのみならず、日本でこれからレースを始めようとしているチームやライダーに希望を与えている事と思います。

この苦しい経済状況の中、自社で 2 年半の歳月をかけ新しい事業や開発に挑戦を続ける姿勢、大企業だけではないという事。

その証明をする場所が今回の日本グランプリ茂木大会です。

2007 年 7 月の発表以来、計 11 バージョンの車両を開発し、今年の世界選手権では 4 チーム 6 ライダー、スペイン選手権 (CEV) では 1 チーム 1 ライダーにマシン供給を行う事が決定しており、先日のカタルニアテスト、IRTA テストではシャイクダウンのテストに関わらずトップ 10 に 4 台も食い込みました。

出場 23 チームライダー 37 名の内、欧州メーカーを選ぶチームがほとんどの中、世界最速で車両を發

表した事、弊社の技術力及びブランド力への信用度により 6 ライダーが日本のシャシメーカーの車両を  
駆り世界選手権に参戦するのです。

2つのワイルドカード枠に対し、弊社を含め3社が参戦希望をされている状況は存じ上げており、  
今年度の全日本 JGP2 に7人エントリーをしておりますが私がお説明申し上げた内容は参戦に値す  
るものと確信しております。

弊社代表取締役森脇護は40年以上に渡り業界に行ってきた貢献度を考えて頂ければ必然と  
考えております。

近日中にワイルドカードエントリーの会議をされる事と思われましたのでここにご説明申し上げました。

ご検討の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

吉報をお待ち申し上げます。

森脇護

株式会社モリワキエンジニアリング

H22.3.10